介護と医療の連携推進業務委託
報 告 書

平成 28 年 3 月

日野市健康福祉部高齢福祉課

－目　　次－

１　業務の概要 1
１－１　業務の目的 1
１－２　業務の進め方 1

２．日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催 3
２―１　会議の概要 3
２―２　各回の内容 4
２-２-１　第１回検討部会 4
２-２-２　第２回検討部会 5
２-２-３　第３回検討部会 6
２-２-４　第４回検討部会 7

３．介護と医療の連携シート及び多職種連携ガイドの修正 9
３―１　作業の概要 9
３―２　調査結果 10

４．多職種協働による連携推進勉強会・研修会の運営支援 13
４―１　会議の開催状況 13
４―２　各会の内容 14
４-２-１　第１段階勉強会 14
４-２-２　第２段階勉強会 15

５．国、東京都・他自治体の取組み等の情報提供 17
５―１　調査の実施状況 17
５―２　収取した事例 18
５-２-１　症例を題材とした勉強会の開催イメージ 18
５-２-２　薬剤師、地域包括支援センターに関連した症例等 19

６．次年度の取組方針の検討 21
６―１　検討部会の開催 21
６―２　連携ガイドの電子化やシートの改善 21
６―３　多職種協働による連携推進勉強会・研修会の開催 22
６―４　国、東京都・他自治体の取組等の調査 22

1　業務の概要

1－1　業務の目的

本業務は、日野市在宅高齢者療養推進協議会（以下、「推進協議会」）、日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会（以下、「検討部会」）及びその他在宅高齢者の療養環境整備支援に係る業務について、円滑かつ効率的、効果的に運営することを目的とする。

「推進協議会」及び「検討部会」は、高齢者が安心して在宅療養を受けられるよう、介護、福祉、医療、保健の各分野のサービス提供主体間における円滑かつ有機的な連携体制の構築を推進することを目的に設置されたものであり、この内容は第２期日野市高齢者福祉総合計画（平成27年3月）の中でリーディングプランの柱の1つに位置づけられた「介護と医療の連携推進」に合致するものである。

▼第２期日野市高齢者福祉総合計画（平成 27 年度～平成 29 年度）における位置づけ

＜目指すべき姿＞

いつまでも安心して暮らせるまち 日野

＜基本方針＞

■高齢者の尊厳の保持と自立支援
■地域包括ケアシステムの構築
■持続可能な支え合いの仕組みづくり

＜リーディングプラン（計画期間中に特に集中的・重点的に行うべき取組み）＞

1 介護保険事業の充実と適正な運営
2 介護と医療の連携推進 →
3 地域で支え合う体制の推進
4 認知症高齢者と家族を支える仕組みづくり

●地域ケア会議の推進［74］
●介護・医療の連携シートの普及［72］
●多職種連携ガイドの普及［73］
●在宅療養高齢者支援窓口［75］
●在宅医療・介護連携支援センター[76]
●在宅医療・介護関係者の研修［77］
●24 時間 365 日の在宅医療・介護サービス提供体制の構築[78]
●二次医療圏内・関係市町村の連携体制の構築[79]
※括弧内の数字は事業番号

1－2　業務の進め方

本業務は、「検討部会」の開催支援を中心に、「検討部会」の中では、「介護と医療の連携シート及び多職種連携ガイドの修正」に関する相談・報告、「多職種による連携推進勉強会・研修会」の企画・運営・改善点の検討を行った。その他、上記作業にあたって参考となる国、東京都・他自治体の取組み等の情報提供も行っている。

2．日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催

2－1　会議の概要

「検討部会」は、在宅療養環境の向上及び介護と医療の連携体制の構築等に関する取組について具体的な検討を進めるために、日野市在宅高齢者療養推進協議会（以下、協議会）のもとに設置された会議体である。平成25年度より、介護と医療の連携に特に関わりの大きい「医師会」「歯科医会」「薬剤師会」「訪問看護ステーション協議会」「市立病院」「在宅介護事業者協議会」「ケアマネ協議会」「地域包括支援センター連絡会」の8団体の代表者と事務局である日野市高齢福祉課を構成員に定期的に活動している。

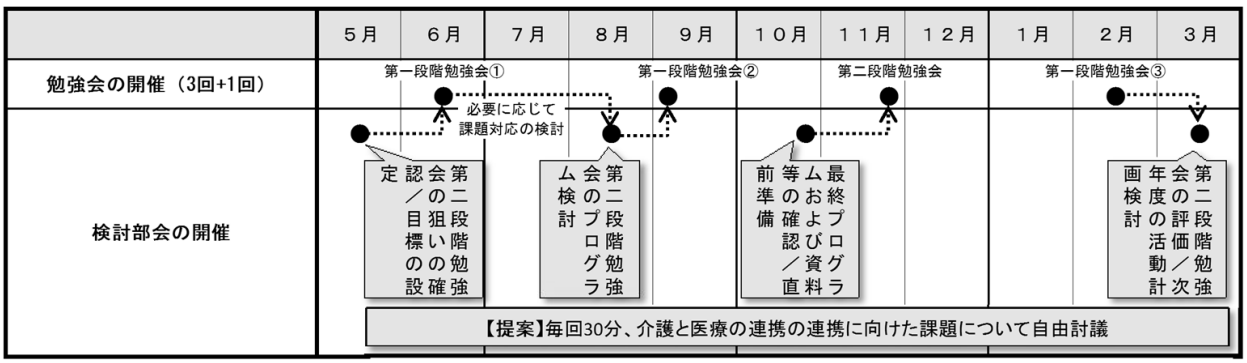
平成27年度は、おおよそ3ヶ月に1回のペースで検討部会を開催し、前述の「介護と医療の連携シート及び多職種連携ガイドの修正」「多職種による連携推進勉強会・研修会」ほかの検討を行った。また、この際には、日野市における介護と医療の連携のあるべき姿に関する現場の状況を踏まえた具体的な提言や、各職種の取組に関する定期的な情報交換も行われるなど、とても有意義な場となっている。

全4回の開催日程と主要な検討テーマは以下の通り。

▼検討部会の開催日程と主要な検討テーマ

回数	日程	主要な検討テーマ
第１回	平成 27 年５月 12 日	○平成 27 年度のスケジュールについて ○第２段階の勉強会（ステップアップ）の基本方針について
第２回	平成 27 年８月 25 日	○第１段階勉強会の開催方法の改善について ○第２段階勉強会のプログラムと事前準備について
第３回	平成 27 年 10 月 27 日	○第２段階勉強会のプログラムと事前準備について（継続）
第４回	平成 28 年３月８日	○第２段階勉強会の評価について ○平成 28 年度の活動方針について

▼開催スケジュール



2－2　各回の内容

2-2-1　第１回検討部会

第１回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成 27 年５月 12 日（火）　18：30～21：00
開催場所	：市役所　502 会議室
参加者	**【委　員】** ：日野市医師会代表者１名、日野市歯科医会代表者１名、日野市薬剤師会代表者１名、日野市訪問看護ステーション協議会代表者１名、日野市立病院 MSW 代表者１名、日野市在宅介護事業者協議会代表者１名、ひのケアマネ協議会代表者１名、日野市地域包括支援センター代表者１名 **【事務局】** ：高齢福祉課長、高齢福祉課在宅サービス係長、係担当者３名（以上、高齢福祉課）、委託先事業者１名（以上、委託先事業者）
プログラム	**【報　告】**　１．平成 27 年度のスケジュールと議題 ２．第１段階勉強会の開催概要 **【議　題】**　１．第２段階勉強会の目標の設定 ２．今後取り上げたい課題について ３．その他
配付資料	**【事前配布】**　平成 26 年度第６回検討部会議事録、検討部会資料、介護と医療の連携推進業務委託報告書、介護と医療の連携推進に関するアンケート結果報告（確定版） **【当日配布】**　次第、「多職種連携ガイド」の掲載内容の確認のお願い（案）、「第２回介護と医療の連携推進勉強会」開催報告、同アンケートの集計結果
結　論	１．平成 27 年度のスケジュールについて以下の内容を決定した。 －勉強会は、顔合わせの会を３回、第２段階を１回の計４回開催する －第２段階の勉強会を 11 月に実施することを目標とする －第２段階の勉強会の準備のため検討部会の開催時期の調整も想定する ２．連携ガイドの修正のため以下の作業を行うことを確認した。 －再確認用書式を各協議会から市内事業所へ配布する －非会員の事業所については事務局が対応することを基本とする ３．次回勉強会（第１段階勉強会）の開催を以下の通り決定した。 －6/26(金)19：20～　従前のプログラムを４テーブルで実施する －開催案内送付のため５月中に勉強会参加者の氏名を事務局へ連絡する（懇親会（2 次会）の会場確保のため懇親会参加者の概数もあわせて連絡する） －勉強会の受付の際に懇親会参加希望者から会費を徴収する ４．前回勉強会のまとめについては、指摘事項を確認し、内容を修正の上公開・返送を行うことを確認した。 ５．第２段階の勉強会について、以下の基本方針を確認した。 －医師会主催の勉強会のような講義＋グループワーク（症例検討等）のプログラムを基本に開催する －ターゲットは第１段階の勉強会参加者全体（≠熟練者）とし、この底上げのため「在宅の現状を知ること」を目指す －主要プログラムは具体的な話のしやすい症例検討をベースに検討することとし、各職種の視点が含まれるような内容でかつ複雑過ぎないものを目指す

2-2-2　第２回検討部会

第２回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成 27 年８月 25 日（火）　18：30～21：00
開催場所	：市役所　502 会議室
参加者	**【委　員】** ：日野市医師会代表者１名、日野市歯科医会代表者１名、日野市薬剤師会代表者１名、日野市訪問看護ステーション協議会代表者１名、日野市立病院 MSW 代表者１名、日野市在宅介護事業者協議会代表者１名、ひのケアマネ協議会代表者 1 名、日野市地域包括支援センター代表者１名 **【事務局】** ：高齢福祉課長、高齢福祉課在宅サービス係長、係担当者３名（以上、高齢福祉課）、委託先事業者１名（以上、委託先事業者）
プログラム	**【報　告】**　１．次年度の活動内容について ２．多職種連携ガイドの改定について ３．ケアプロナビの紹介（多職種連携ガイドの電子版の作成等） **【議　題】**　１．第 1 段階勉強会について ２．第 2 段階勉強会のプログラムと事前準備について ３．その他
配付資料	**【事前配布】**　平成 27 年度第 1 回検討部会議事録、検討部会資料、平成 27 年度第 1 回介護と医療の連携推進勉強会開催報告、第 2 回介護と医療の連携推進勉強会講義資料（案）、同グループワーク資料（案） **【当日配布】**　次第
結　論	１．今年度～次年度の事業内容について以下の通り進めることを確認した。 －検討部会の活動は今年度と同じ年４回の開催を想定する －ケアプロナビを来年度から運用（多職種連携ガイドの電子版の作成等）する －その他、勉強会に寄せられた意見の DB 化作業は適宜進める ２．第 1 段階勉強会（6 月開催済）のまとめは事務局で以下の修正を行い、部会員に最終確認を依頼した後、参加者へ配布を行うこととする。 －no.2、6、7 は部会員の指摘に従って加筆・修正を行う －no.5、8 は削除する ３．第 1 段階勉強会（9 月予定）は次の方法で GW の効率化を図ることとする。 －コメントは書ける分だけ（現在と同様）／青色の付箋はコメント不要とする －読み上げる枚数を減らす／発表時間を限定するなど発表時間の短縮を図る（付箋はできるだけ全部貼りつけてもらう） －効率化により全員が発言できる状況をつくることが再優先とする（その後の深堀り等は進行役にある程度お任せする） －付箋の貼り方は基本型を提示する（アレンジは進行役にある程度任せる） ４．第２段階勉強会は以下の方針で準備を進めることとする。ただし、事前準備の状況（10 月末の検討部会の結果）で第 1 段階への切替も想定する。 －薬剤師または包括を取り上げる －「職種の概略の紹介」「事例検討（GW）」「模範解答の発表」を基本とする －参加者は第 1 段階経験者から各職種 4 人程度、その他は聴講枠で対応する －開催日は 11 月 20 日または 27 日／明日部会員の予定を確認して決定する ５．検討部会メンバーを中心に、情報共有システム「カナミック」の導入にかかる協議会を立ち上げ、協議会の前後で意見交換の機会を持つこととする。

2－2－3　第３回検討部会

第３回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成 27 年 10 月 27 日（火）　18：30～21：00
開催場所	：市役所　502 会議室
参加者	**【委　員】** ：日野市医師会代表者１名、日野市歯科医会代表者１名、日野市薬剤師会代表者２名、日野市訪問看護ステーション協議会代表者１名、日野市立病院 MSW 代表者１名、日野市在宅介護事業者協議会代表者１名、ひのケアマネ協議会代表者１名、日野市地域包括支援センター代表者１名 **【事務局】** ：高齢福祉課長、高齢福祉課在宅サービス係長、係担当者３名（以上、高齢福祉課）、委託先事業者１名（以上、委託先事業者）
プログラム	**【報　告】**　１．多職種連携ガイドの改定について ２．委員の交替について ３．医師会からの連絡 **【議　題】**　１．第２段階勉強会の開催方法の検討 ２．第１段階勉強会の開催方法の改善 ３．その他
配付資料	**【事前配布】**　平成 27 年度第２回検討部会議事録、検討部会資料、「検討テーマ案」および「確認をお願いしたい項目」 **【当日配布】**　平成 27 年第２回勉強会の記録、第２段階勉強会開催案内（案）
結　論	１．本日を締切として連携ガイドの修正作業を進めることとする。 ２．第１段階勉強会（９月予定）は次の方法で GW の効率化を図ることとする。 －コメントは書ける分だけ（現在と同様）／青色の付箋はコメント不要とする －読み上げる枚数を減らす／発表時間を限定するなど発表時間の短縮を図る（付箋はできるだけ全部貼りつけてもらう） －効率化により全員が発言できる状況をつくることが再優先とする（その後の深堀り等は進行役にある程度お任せする） －付箋の貼り方は基本型を提示する（アレンジは進行役にある程度お任せ） ３．第２段階勉強会は次回を０回目と位置付けて以下の通り開催することとする。 －薬剤師をテーマに、症例を通じて療養環境を意識した支援の方法を検討する －具体の資料は本間委員・伊藤委員・事務局で相談して作成する －参加者は（ひとまず）第１段階の経験者最低４人を対象とする －各協議会は６日までに市へ参加者の連絡を行う －その他、13 日までの先着制で聴講者の募集も行う ４．第１段階勉強会と医師会主催の研修会をともに２月に開催することとする。 ５．第１段階勉強会のまとめを指摘の通り修正する。

2－2－4　第４回検討部会

第４回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成 28 年３月８日（火）　18：30～21：00
開催場所	：市役所　502 会議室
参加者	**【委　員】** ：日野市医師会代表者１名、日野市歯科医会代表者１名、日野市薬剤師会代表者１名、日野市訪問看護ステーション協議会代表者１名、日野市立病院 MSW 代表者１名、日野市在宅介護事業者協議会代表者１名、ひのケアマネ協議会代表者１名、日野市地域包括支援センター代表者１名 **【事務局】** ：高齢福祉課長、高齢福祉課在宅サービス係長、係担当者３名（以上、高齢福祉課）、委託先事業者１名（以上、委託先事業者）
プログラム	**【議　題】**　１．勉強会の開催方法について ２．次年度の新しい取組について ３．職種毎の取組状況について ４．次年度のスケジュールについて
配付資料	**【事前配布】**　平成 27 年度第 3 回検討部会議事録、第４回検討部会資料、意見募集シート、平成 27 年度第３回勉強会ミニアンケート、同第４回勉強会ミニアンケート **【当日配布】**　平成 27 年度第２回勉強会のまとめ（修正版）、同第３回勉強会【第２段階】のまとめ（叩き台）、同第４回勉強会のまとめ（叩き台）
結　論	１．勉強会のまとめは事務局で修正を行い、関連する委員に内容の確認をお願いする。 ２．次年度の勉強会は以下の通り開催することとする。 ー第１段階、第２段階ともに現在の形を継続して開催する ー回数は計４回で３：１または２：２の開催とする ー第２段階の勉強会を２回開催する場合には、地域の問題等を検討部会で練ったプログラム（今年度実施）に加えて、疾患ベースのものを採用する ３．連携支援センターの機能については今後も意見交換を実施して、次年度の上半期におおよその意見を集約する。 ４．次年度のスケジュールは資料の通りとする。 ー6 月の勉強会は第１段階とする

3．介護と医療の連携シート及び多職種連携ガイドの修正

3－1　作業の概要

平成26年度に以下の項目を確認するアンケート調査を実施した。

－連携シート：使いやすさの評価とその理由／具体の改善点　等

－連携ガイド：配布希望／新規の掲載希望／掲載内容の変更　の有無

平成27年度は、この調査結果にもとづいて連携シートおよび連携ガイドの修正の必要性を検討し、必要な対応を行った。

検討の手順は以下の通り。

▼検討の手順

作業項目	作業内容
追加調査の実施	○多職種連携ガイドの修正の有無を再確認する調査を実施（調査の概要を別表に示す） ○その他、アンケート調査後にあった新設・廃業の内容を確認
要修正箇所の整理	○2 回の調査の結果を踏まえて、要修正箇所を整理
書式の修正	○上で整理した修正箇所を実際の書式（連携ガイド）に反映 ※連携シートについては、今回は修正不要と判断した
差し換え用紙の送付	○連携ガイドは加除式となっているため、修正を行った頁のみを関係者に送付

▼追加調査の概要

調査目的	：平成 26 年度に実施したアンケートについて、「無記名アンケートという性格上、記名を必要とするガイドの修正希望が出しづらい事業所もあったのではないか」という指摘を踏まえて、多職種連携ガイドの修正の有無だけを取りだして再確認することを目的とする。
調査期間	：平成 27 年９月
調査対象	（A）８団体（3 頁参照）に加入する市内の全事業所：計 479 所※ （B）協議会に加入していない事業所：61 所 ※複合事業所は業務内容毎に重複してカウントする
調査方法	（A）上記８団体を通じた配布・周知／変更等の希望者のみＦＡＸにて回収 （B）郵送配布／変更等の希望者のみ郵送またはＦＡＸにて回収
配布・回収	（B）のみ ：配布数　61 通（郵送配布分のみ） ：回収数　０通
調査項目	：事業所名 ：担当者名 ：連絡先 ：希望する内容（配布希望／新規の掲載希望／掲載内容の変更希望） ：変更希望がある場合はその具体的な内容

3－2　調査結果

2回の調査の調査の中で連携シート及び多職種連携ガイドについて複数の指摘が寄せられたが、既に対応している内容、作成時に敢えて採用しなかった内容、今後電子化によって対応すべき内容なども多く、今回は事業所情報の更新のみを行うこととした。参考として指摘の内容を以下に示す。

事業所情報を更新する必要があったのは、以下の12事業所であった。

－2回の調査を通じて修正ありの回答があった8事業所

－アンケート調査後に新設の4事業所

▼連携シートに関する指摘

修正希望等 （2 件）	・枠が狭かった。初診時の情報提供や状況説明の場合、「何を知りたいのか、何のために知りたいのか～」というコメントがそぐわないのでいらないと思う。また、行が狭いので相手が読めるのか心配になった。 ・何度も自分のプロフィール情報を書いたような気がしました。次からはコピーをして、自分専用を作って利用するようにしました。 **→2 件目は今後電子データを配布することによって対応**
運用方法に関する指摘 （4 件）	・まだ全体になじんでない印象を受けたが、連絡方法がわかりやすくなった。 ・入退院用はどのタイミングで出せばよいのか？逆に病院からほしいと言われたい。浸透していれば・・・ ・見て頂けている Dr と全く見ていない Dr がいる。医療側の意識を高めて欲しい。 ・出される側の医師が困惑している。先生方に浸透していないのではないか。

▼連携ガイドに関する指摘

情報の更新に関する要望 （更新の方法） （事業所情報） （詳細情報） 全９件	・情報更新と最新情報を入手する仕組みが分かりません。定期か不定期か、更新された差し替え情報は配布されるのか、依頼をするものなのか等。 ・閉鎖事務所、新たに開設した事務所クリニック等、定期的に更新してほしい。 ・新しい事業所を追加してほしい。 ・新規の事業所を紙などをはさんで入れてほしかった。 ・H 医院が記載されていない。 ・事業所についての情報にむらがある。 ・医療機関の診療時間など（が欲しい）。 ・“〇〇加算あり”などの加算情報（が欲しい）。 ・「ST 在中」と記載されているが実際はいないといったことがあった。 **→自己申告により情報の更新や新設事業所の追加等に対応** **→定期的な更新や情報の訂正の仕組みは電子化の際にシステム化することを検討**
検索効率に関する要望 （全般） （地図） （索引） 全 10 件	・検索をする時に探しやすい方法を工夫してほしい。 ・地図があると良かった。　×3 ・地図があるとさらに使いやすくなると思う。　×２ ・強いて言うなら、事業所か住所のあいうえお順に並んでいる点がわかりづらかった。（例えば包括圏域ごと等に、地区で探せると助かる） ・病院を探すのに地域ごとに掲載してあげれば尚良い。 ・掲載順を５０音順にして欲しい。 ・名前があいうえお順でない為探しづらい。 **→地図は電子化の際に対応を検討** **→巻末に５０音順の索引を掲載済**
形式に関する要望 全３件	・情報の内容としては他に無いくらい詳しく記載されているので、市のホームページ等からも検索出来るようになると、さらに使いやすくなるように思いました。 ・スマホや PC から簡単に探しだせると利用し易い。 ・冊子の方が扱いやすい。 **→平成 28 年度に電子化を検討**
その他の指摘 １件	・相談に来た人にコピーして渡せないような情報のあり方に価値があるのか疑問。 **→関係機関用の情報提供を目的としたものであるため今回は対応せず**

４．多職種協働による連携推進勉強会・研修会の運営支援

４－１　会議の開催状況

平成26年度と同様に「検討部会」が主体となって、「基本的な情報を知ってもらう」「知りたい情報を集めて提供する」「事例を通じた意識づけを行う」「顔をあわせる機会をつくる」「各職種それぞれの役割をPRする」という狙いを持って勉強会・研修会を開催した。

平成27年度は、昨年度から継続となる「顔の見える関係づくり」を目的とする第１段階の勉強会を3回開催したほか、この次のステップとして「他の職種の役割を知ろう」をテーマとする第２段階の勉強会を1回開催した。

勉強会・研修会では終了時に毎回ミニ・アンケートを実施して参加者からの評価を確認しているが、いずれも評価が高く今後も継続して開催する予定である。また、勉強会の開催結果は必ずまとめを作成して情報の共有と疑問点の解消に努めているほか、閉会後には懇親会の開催が恒例となっており、これらも多職種の連携推進に役立っている。

他にも、2月に日野市医師会主催で「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」が開催されているが、こちらにも日野市が共催、8団体（3頁参照）が協力として関わっており、第2段階の勉強会の一環と捉えることができる。

▼各会の開催日程等

名称	日程	主催と対象
第１回 介護と医療の連携推進勉強会	平成 27 年６月 26 日	主催：日野市高齢福祉課 対象：多職種
第２回 介護と医療の連携推進勉強会	平成 27 年９月 11 日	主催：日野市高齢福祉課 対象：多職種
第３回【第２段階】 介護と医療の連携推進勉強会	平成 27 年 11 月 20 日	主催：日野市高齢福祉課 対象：多職種
第４回 介護と医療の連携推進勉強会	平成 28 年２月 12 日	主催：日野市高齢福祉課 対象：多職種
《参考》在宅医療推進のための 地域における多職種連携研修会	平成 28 年２月 27 日	主催：日野市医師会 対象：多職種（主に上記勉強会の出席者）

※2/27 に開催された日野医師会 在宅医療推進のための地域における他職種研究会については、次項での詳細な報告は割愛する

４－２　各会の内容

４-２-１　第１段階勉強会（第１回・第２回・第４回 介護と医療の連携推進勉強会）

介護と医療に携わる専門職同士の“顔の見える関係”の構築を目的とする勉強会である。平成27年度は全3回開催して合計141名の参加を得た。各回の参加者数は以下の通り

ー第1回　8団体に所属する介護と医療の関係者46名、事務局6名（11～12名のグループ×4）

ー第2回　8団体に所属する介護と医療の関係者37名、事務局6名（9～10名のグループ×4）

ー第4回　8団体に所属する介護と医療の関係者42名、事務局4名（10～11名のグループ×4）

プログラムは、冒頭で日野市より多職種連携に関する基本的な情報を説明した後、検討部会を構成する8団体からの参加者（各職種最低1名以上）がテーブルを囲んでグループワークを行う計2時間の内容となっている。グループワークでは、日頃のお付き合いの状況やお互いの印象や質問等についてざっくばらんに話し合いを行うことを目指しているが、参加者からは「自分達がこんな風に思われているとは…」「今までは壁があって話をしづらかったけど、これからは大丈夫」「是非また参加したい」といった声が寄せられるなど高い評価を得ている。

▼開催概要

ＳＴＥＰ１　開会挨拶

日野市役所高齢福祉課からご挨拶

ＳＴＥＰ２　基本情報の説明

高齢福祉課から“連携”や“勉強会”の趣旨をご説明

ＳＴＥＰ３　付箋の記入

まず、他職種とのお付き合いの状況を青、黄、ピンクの３色の付箋に記入して、順番に並べていきます

ＳＴＥＰ４　付箋の紹介と意見交換

机上に並んだ付箋のコメントを見ながら話しあいます
（同じ職種が固まらないようグループ分けしています）

ＳＴＥＰ５　全体発表

テーブル毎にどんな話が出たのかを発表します
（付箋の色はある意味各職種の成績発表です）

ＳＴＥＰ？？　懇親会

閉会後は居酒屋に会場を移して、毎回恒例の懇親会です
過去の参加者も加わって賑やかな会となっています

４－２－２　第２段階勉強会（第３回 介護と医療の連携推進勉強会）

第1段階の勉強会の修了者を対象にした、「顔の見える関係づくり」の次のステップの勉強会である。平成27年度には1回開催して54名の参加を得た。その内訳は以下の通りである。

ー8団体に所属する介護と医療の関係者50名（12～13名のグループ×4、聴講1名）

ー事務局4名

初めての開催となる今回は、「物忘れの症状が進んで薬が飲めないことが増えた」ケースを取り上げて、各職種がそれぞれどのようなことが出来るかを紹介し合い、他職種の仕事内容に触れながら連携の仕方を相談するグループワークを実施した。また、後半では、「薬の飲み忘れ」に関わりの深い薬剤師の方から仕事内容と今回のケース対応について講義形式で解説していただいた。

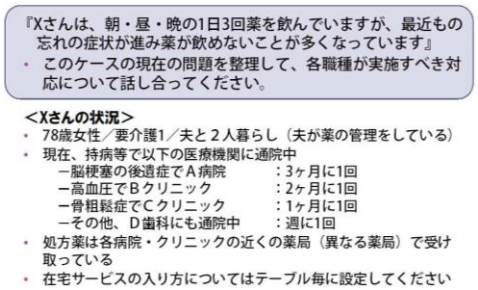
参加者からの評価はとても高く、今後もそれぞれが関連した内容のグループワーク（症例検討）と講義（職種の紹介）の2本柱でプログラムを構成することを計画している。

▼開催概要

ＳＴＥＰ１　開会挨拶

いつものように日野市役所高齢福祉課からご挨拶

ＳＴＥＰ２　症例／ケースの提示

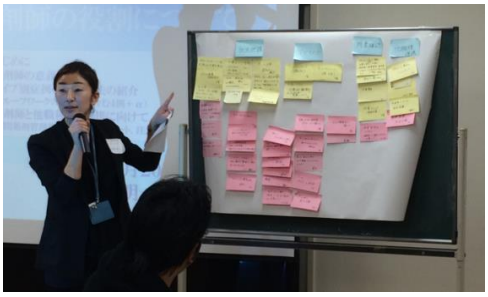


文字が小さいですが…今回のケースは上の通りです

STEP3　対応を検討するグループワーク

提示された症例／ケースの問題点や各職種ができる／やるべきことを付箋に書いて話し合い

ＳＴＥＰ４　全体発表



グループ毎に検討内容を発表し、全体で共有しました（検討内容のまとめは次頁以降をご参照ください）

ＳＴＥＰ５　解説

最後に薬剤師の方から、ケース対応に関する解説と薬剤師の仕事内容の紹介をしていただきました

ＳＴＥＰ？？　懇親会

連携を深めるのはこれが一番？ 第２段階でも、閉会後は居酒屋に移動して懇親会を開催しました

５．国、東京都・他自治体の取組み等の情報提供

５－１　調査の実施状況

平成27年度は、「多職種協働による連携推進勉強会・研修会（4章）」における第2段階勉強会の開催が大きなテーマとなっていたため、こうした勉強会・研修会の参考となる事例の収集を行った。

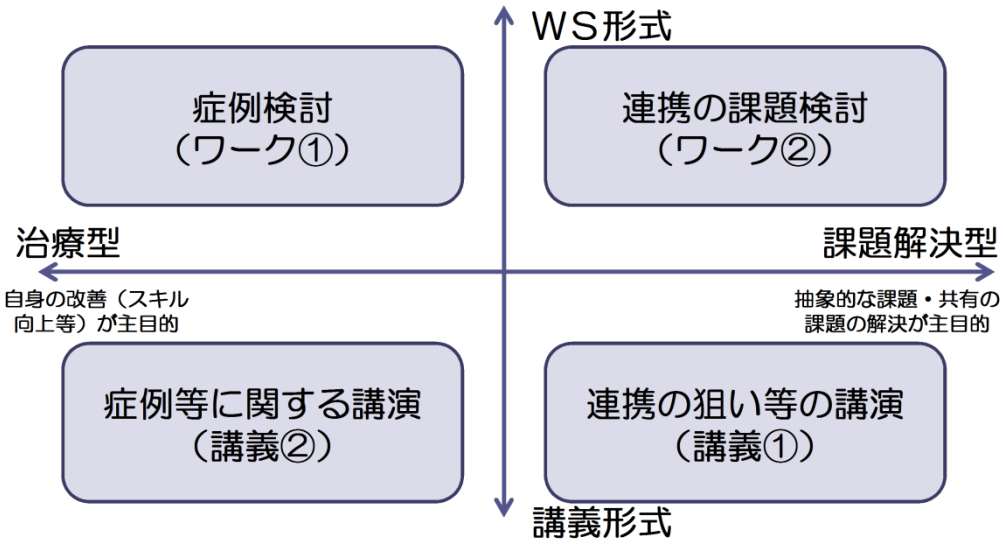
事例の収集は、まず症例を題材とした勉強会の開催イメージ、次に特に取り上げたい職種として挙げられた薬剤師、地域包括支援センターに関連した症例等について実施した。

次項以降にその概要を示す。

▼調査を行った主な取組

調査項目	事例名称
症例を題材とした勉強会の開催イメージ	○在宅医療推進のための多職種連携研修 （うち摂食・嚥下・口腔ケアに関する領域別セッション）
薬剤師、地域包括支援センターに関連した症例等	○なの花薬局（北海道）の例 ○日野市内の例

▼事例の収集に先立って行った整理《参考》



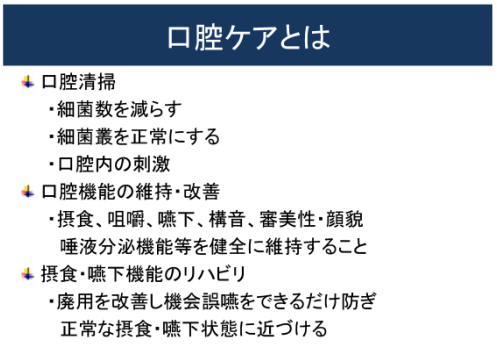
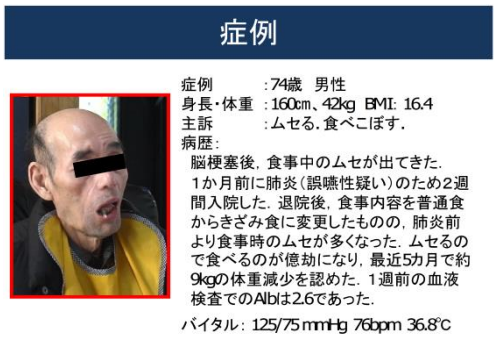
5－2　収取した事例

5-2-1　症例を題材とした勉強会の開催イメージ

症例を題材とした勉強会の開催イメージとして、東京大学高齢社会総合研究機構が実施している在宅医療推進のための多職種連携研修のうち、領域別セッションの内容を確認した。

今回調査を行ったのは以下のような事例で、前頁の整理では、WS形式と講義形式の併用／治療型に当たる。

▼事例

名　　称	：在宅医療推進のための多職種連携研修 （うち摂食・嚥下・口腔ケアに関する領域別セッション）
特　　徴	：摂食・嚥下への対応の基本、口腔ケアを講義形式で学んだ後に、栄養摂取方法、嚥下リハビリテーションをテーマに多職種グループワークを行う例　等 ：講義とグループワークの２本柱で、必要な知識を得ながら多職種との関係を深めることができる ：また、摂食・嚥下・口腔ケアを取り上げることで、第１段階の勉強会の中で最も多職種と連携が取れていない歯科医師を中心とした話し合いができることも期待される
プログラム	テーマ　在宅での摂食・嚥下障害 ：講義１　摂食・嚥下への対応の基本　【40 分】 ：講義２　口腔ケア　【10 分】 ：演習１　症例に適した栄養摂取方法　【２０分】 ：ミニ講義１　演習１の解説　【5分】 ：演習２　多職種で行う嚥下リハ　【30 分】 ：ミニ講義２　演習２の解説　【１５分】　以上、合計 120 分
参　　考	 

5－2－2　薬剤師、地域包括支援センターに関連した症例等

グループワークの題材となる症例として、特に取り上げたい職種として挙げられた薬剤師、地域包括支援センターが中心となり、かつ他の職種も意見が言いやすいようなものを調査した。

今回調査を行ったのは以下のような事例である。

▼事例：薬剤師の関わる症例

なの花薬局（北海道）の例：薬局薬剤師における在宅業務マニュアルより

《患者》：78歳女性、介護度３。重度のパーキンソン病でＡ病院でH12年にDBS手術施行。H15年にＢ病院で大腸がん頚椎転移手術後抗がん剤内服治療中。
《訪問依頼（H21.12）：担当ケアマネージャー》
認知症があり日中独居状態の時に服用薬をいじって危険な状況。
週１回訪問看護師が訪問するが、内服薬の種類も多く服薬管理が大変で、リハビリも含めた看護業務に支障をきたしている。薬剤師が訪問して服薬管理をして欲しい。
《処方薬》：
Ａ病院神経内科：
H21.12：ノルバスクOD錠2.5mg、アルファロールCP1μg、グラケーCP15mg、ペルマックス錠250mg、メネシット配合錠100mg、セロクエル錠25mg、イドメシンコーワパップ20mg、モーラステープ20mg
Ｂ病院：
H22.3：ユーエフティーCP100mg、アローゼン0.5g、酸化マグネシウム

薬剤師が関わるまでの設定を借用（薬の名称等の細かい内容は省略か）

《薬剤管理指導経過》

①H21.12：一包化など服薬状況向上のための工夫
＊訪問看護師と同じ時間帯に２週間ごと訪問開始。
＊薬は一包化し、朝夕の分包紙に赤、青の線を入れ昼は色なしで区別しお薬カレンダーに１週間分セット。残り１週間分はジッパー付ケースに入れて患者宅に保管し、毎週訪問する訪問看護師がカレンダーにセットする。
＊Ａ病院は60日処方なので一度に処方薬を患者宅にお届けせずに残りの薬は薬局保管とする。
以上の服薬管理により服薬状況は向上。

②H22.3：併用薬の服薬管理
＊便秘症状悪化のためＢ病院に約１週間入院し、以後定期通院しユーエフティーとアローゼンが継続処方。Ａ病院処方薬にＢ病院処方薬をホチキス止めし服薬管理。

職種内容の紹介とあわせて冒頭でここまで説明
↑
↓
薬に関する困ったシチュエーションを題材に話しあい

③H22.4：医師に患者の生活習慣に応じた用法変更を依頼
＊夕食直後に眠くなり、20時服用のセロクエルを未服用のことが多く、夜間中途覚醒し家の中を徘徊、転倒もあり危険な状態。
＊ケアマネージャー、訪問看護師、ご家族と話し合い、医師に20時服用薬を夕食後に用法変更し、セロクエルが確実に服用できるように依頼。用法変更後、睡眠状況は良好となる。

④H22.7：医師に患者の症状変化に応じた処方薬中止の依頼
＊ケアマネージャー、訪問看護師からデイサービスで入浴前の血圧が低く入浴できない時が多いとの情報あり。
＊医師にノルバスクOD錠の処方中止依頼。服用中止後、血圧は安定経過。現在も継続訪問中。

ここでは、③「“飲めない”問題」に対する対応、④「服薬による問題発生」に対する対応　について話しあうことを想定

検討部会では、他に「夜間の急な熱発時の薬の服用の判断」が候補に上がった

▼事例：地域包括支援センターが関わる事例

日野市内の例：地域包括支援センターからの提供

《導入》
Aクリニックの医師より「外来でちょっと気になる高齢者夫婦がいる。最近夫のやせ方が著しい」と地域包括支援センターに電話がありました。

導入が“包括への連絡”であるため、他職種に包括への連絡によって様々なサービスにつなげることができる点を意識づけ

《対象》 75歳男性、要介護3。

- 既往歴：11年前にパーキンソン病と診断され、通院治療中。寝たきりにしたくないと考える妻に叱咤激励されながら、以前に病院で指導を受けたリハビリメニューを一生懸命行っている。3か月前には誤嚥性肺炎で2週間の入院歴あり。
- 生活環境：丘陵地の一軒家に70歳の妻と二人暮らし。他市に長男家族が住んでいるが、主介護者は妻。
- 介護サービス：週2の入浴介助と介護用電動ベッド、車いすのレンタルを利用。
  サービス利用を増やすようケアマネから勧められると妻の意向でケアマネを交代させている。
  現在のケアマネは受け持って8か月。
- 服薬状況：

《食事の状況や直近の身体状況》

- 体重62～64 kg（身長168 cm）で安定していたが、退院後の3か月で8 kg減少。
- 検査では、消化管には異常なし。血清アルブミン値が3.5g/dlとやや低くなっている。
- 季節や何月かが分からなくなることがある。意欲の低下が見られることもある。
- 上下ともに歯（義歯）は揃っているが、しっかりと開口できず、上顎義歯はつけないことが多くなっている。
- 食事は米飯普通食。妻の介助で食卓まで歩行し、妻の声掛け（自分で食べさせたいので手は出さないようにしている）でフォーク等を使い摂取しているが、あまり食は進まない。

“やせ”の実際の要因は放置（虐待）
→これに関連して、解説の中で虐待に対応する包括の仕事内容を紹介できる点もメリット

６．次年度の取組方針の検討

６－１　検討部会の開催

検討部会については、介護と医療の連携を進めるための具体的な方策を検討する作戦本部として、また職種・協議会間の情報交換の場として今後も継続的に開催することとする。開催頻度は今年度と同様の年4回程度を想定する。

「検討部会」では、これまで「連携シート及び連携ガイドの作成」「勉強会の立ち上げ」について主に議論してきたが、今後は平成29年度を目途に設置が計画されている「在宅医療・介護連携支援センター」の機能や体制の具体化が大きな検討テーマとなる。

このテーマは、在宅医療・介護連携推進事業に示された8つの取組に則るものであり、取組イ「在宅医療・介護連携の課題と抽出の対応策の検討」の内容を確認しながら、その他の取組にも目配せした内容となるよう検討を進めることとする。

＜検討部会全体の進め方（案）＞

○ 年度の前半は、「在宅医療・介護連携支援センター」について重点的に検討を行う
○ 年度の後半は、第２段階の勉強会のコンテンツの作成についても検討を行う
○ その他、各職種・協議会間の取組に関する情報交換や、新たに発生した課題への対応、勉強会の改善点等の検討などを適宜実施する

＜「在宅医療・介護連携支援センター」に関する検討の進め方（案）＞

○ 検討部会での検討にあたって事務局は以下の作業を行う
　－過去に勉強会等で出された多職種連携の課題の整理
　－他自治体等の取組に関する情報収集（事例調査）
　－日野市立病院地域医療連携室の取組状況の確認（ヒアリング）
　－上記および検討部会委員の意見を踏まえた叩き台の作成
○ 検討部会委員は以下を検討する
　－各職種がセンターに求める機能や必要な人材のイメージ
　－事務局が提示する叩き台に対する意見

６－２　連携ガイドの電子化やシートの改善

連携ガイドに関する「情報を更新する方法が分からない」「地図を使った検索がしたい」といった要望（平成26年度アンケートより）に応えて、平成28年度からインターネットを活用した介護と医療の関係事業所への情報提供を開始する予定となっている※。

そこで平成28年度は、デジタル化によって連携ガイド及び連携シートが一層活用されるものとなるよう以下のような検討を行うこととする。

- アンケート調査で寄せられた要望等からデジタル化により可能になりそうなことを再整理
- 情報提供の開始にあわせたＰＲなど利用率向上の工夫を検討

※現在は介護事業所を対象とした情報提供ポータルサイト「ケア倶楽部」を運営しているが、これを医療関係事業所にも対象を拡大し、日野市と介護・医療の関係事業者の情報共有を可能にするものである。

６－３　多職種協働による連携推進勉強会・研修会の開催

第1段階の勉強会については、これまでに計5回を開催し、日野市の介護と医療の関係者の「顔の見える関係づくり」の重要な機会として定着している。一方で、参加希望者が少なくなってきている／多すぎるという背景は異なるものの、開催準備が「検討部会」委員の負担になっていることから、Webサービスを活用した参加者の募集や誰が参加しても進行ができるようなマニュアルの作成など付帯作業の簡略化を進めることとする。

平成27年度にはじめて試行した第2段階の勉強会については、「グループワークのゴールが分かりづらい（第1段階との違いが見えづらい）」という指摘もあるなどまだ第1段階のような“型”が確立できていない状況である。第1段階の修了者が増え第2段階への期待が増している中、早期開催と長く使える“型”の確立を並行して進める必要がある。

＜勉強会・研修会の進め方（案）＞

○ 平成 28 年度は、第 1 段階の勉強会と第 2 段階の勉強会を各２回開催する
○ 開催は①②①②の順番とする

＜第2段階の勉強会の開催およびプログラム開発の進め方（案）＞

○ 前の②は（独）国立長寿医療研究センターの提供するプログラム等の既存の材料を活用して開催する
○ 後の②は独自のコンテンツで開催できるよう「検討部会」の中で準備を進める

６－４　国、東京都・他自治体の取組等の調査

前述の通り、大きな検討テーマとなっている「在宅医療・介護連携支援センター」に関する情報収集を積極的に行うこととする。また、日野市型の第2段階勉強会の確立に向けた事例の収集についても引き続き実施することとする。